

# 平成29年度 指定管理者評価結果票

所 管 課	健康福祉部障害福祉課
評価対象期間	H29.4.1 ~ H30.3.31

## 1 基本情報

施設概要	名 称	岐阜県立陽光園
	所在地	美濃市立花1155-5
指定管理者	名 称	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
	構 成 員	—
	所在地	岐阜市下奈良2丁目2番1号
	指定期間	H28.4.1 ~ H33.3.31
指定管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(平成17年法律第123号)(以下「障害者総合支援法」という。)第5条第11項の規定により、身体障害者につき施設入所支援を行うとともに、施設入所支援以外の施設障害福祉サービスを行う業務。</li> <li>・障害者総合支援法第5条第8項に規定する短期入所(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第5条に規定する精神障害者に係るものを除く。)を行う業務。</li> <li>・施設の管理に関すること。</li> <li>・その他仕様書に定めること。</li> </ul>	

## 2 利用状況を把握するための指標

指標	利用者数 (単位:人)
H27	2,098
H28	2,036
H29	1,990

## 3 平成29年度の収支状況

(単位:千円)

収 入 計	377,903
利用料金	377,389
指定管理料	0
そ の 他	514
支 出 計	350,483
人 件 費	259,866
施設管理費	31,748
そ の 他	58,869
差 引	27,420
納 付 金	0

## 4 前年度の評価員会議の主な意見及び対応

前年度の評価員会議の主な意見	対応状況
・利用者の重度化、高齢化に対する確実にスキルアップできるような計画性のある研修を望みたい。	・医療関係者を園に招いての口腔ケア研修の実施や検食の内容に刻み食やソフト食といった食形態の追加を行い、実際に介助職員も食べてみる機会を設けた。福祉機器の使用方も職員が体験することで支援を受ける側に立っての支援ができるように取り組んだ。
・利用者の状態にもよるでしょうが、今まで築いてきた地域交流の機会をさらに発展させていく努力が必要。	・施設のマンネリ化を防ぐため、日中活動の新たな活動として動物愛護センターによるアニマルセラピーや着物の着付けのボランティア活動を導入した。ボランティア活動については、ボランティア会議等で利用者の希望を確認し、行事のみでなく、ふれあいを重視した散歩や傾聴などの活動もしていただけるようになった。

## 5 評価員会議による評価結果

評価項目	評価点 (平均点)	評価員の主な意見
管理基準の充足状況	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中専任の職員配置により、集団活動、趣味活動、個別活動が行われている。特に個別活動においての自己決定の機会となり、個別支援の実践ができていたのが評価できる。</li> <li>・個別支援計画において、利用者との毎月の評価、ニーズの洗い出し、6か月ごとの見直しを、家族も含めて行っている点は、大いに評価できる。</li> <li>・短期入所を希望する在宅の方の医療的ケアのニーズに答える状況にはない。</li> </ul>
設置目的の充足状況	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中の施設としての開かれた施設づくりに力を注いでいる点は、大いに評価できる。その中で、施設ボランティアの827名の受入れ、地元雇用の実施、コミュニティバスの活用など様々な働きかけで、利用者の生活が活性化している源を作り出していることがうかがえる。</li> <li>・きめ細やかな苦情相談により職員と利用者の意識の違いを受けとめ、利用者の豊かな生活につなげている。</li> <li>・短期入所について、職員の不足により利用受入れ出来ない状況。引き続き職員採用に取組み、改善に努めていただきたい。</li> </ul>
公共性の確保の状況	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中活動において専任の職員の配置により、グループ活動、趣味的活動、個別活動の幅が広がったと推測する。個別活動における利用者本位による自己決定、自己選択ができていた点は評価できる。さらなる潜在能力への働きかけも期待している。</li> <li>・美濃市と「災害時の協定書」の締結の関してさらなる働きかけが必要である。</li> <li>・入所者の高齢化にともない歩行時転倒、車椅子からの転落事故が増えている。安全を理由としても身体拘束をなくしていくことが人権上求められている。高齢化にともなうリスク管理をどうするか、園をあげての研究課題になっている。</li> </ul>
経営状況	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の確保、育成など、事業団全体で策を考えられているようだが、速やかに実施され、改善を進めていただきたい。</li> <li>・29年度決算では前年に比べ人件費が減っているが、職員配置、職員処遇は適切か。</li> </ul>
派生的効果	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アニマルセラピーや着付けボランティアなどの新しいボランティアの導入による利用者の生活を活性化させているのは評価できる。</li> <li>・厳しい職員状況の中、利用者ニーズに応え日中一時支援の受入れを行い、地域福祉に貢献している。</li> <li>・身障施設はボランティアの活動、交流が受入れやすい状況であったと言えるが、近年の社会情勢は従来のようなボランティアに依存した活動から、相互交流、相互貢献が求められていくのではないか。</li> </ul>

### <評価基準>

5	定書等に定める水準を上回る管理運営がなされており、かつ特筆すべき実績・成果を上げている
4	協定書等に定める水準を上回る管理運営がなされている
3	協定書等に基づき、適切な管理運営がなされている
2	協定書等に基づき、概ね適切な管理運営がなされているが、一部に更なる工夫や改善を要する
1	改善を要する

## 6 県による評価結果

最終評価	評価の考え方
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のサービスに対するニーズに応えるため、個別支援計画の確認・評価を利用者とともに毎月実施しており、職員の業務や日中活動において改善に努めている。</li> <li>・積極的な各種ボランティアの受入れ、コミュニティバスの活用など、地域との交流を推進することにより利用者の生活の活性化に努めている。</li> <li>・警察や消防にも協力していただき、実地に応じた救助訓練等を実施することで、危機管理体制を確保している。</li> <li>・入所者の高齢化や職員の不足等に対し、引き続き必要な対策を講じる必要がある。</li> </ul>

### <評価基準>

S	優れた管理運営がなされており、かつ十分な実績・成果を上げている
A	優れた管理運営がなされている
B	適正な管理運営がなされている
C	改善を要する